

令和4年度第1回（通算第19回）香取市子ども・子育て会議 会議録（要旨）

【日 時】 令和4年10月26日（水）14：00～

【場 所】 香取市役所 4階会議室

【出席者】 鈴木委員（副会長）、齋藤委員、高橋委員、額川委員、島崎委員、山本委員、鏑本委員、潮田委員、海寶委員、出井委員、小林委員（代理者出席）
（欠席：圓藤委員（会長）、栗山委員、中野委員、鳥次委員）

事務局： 子育て支援課、学校教育課

1.開会

事務局から委員の紹介及び事務局の自己紹介

委員15名中、11名出席により会議の成立を宣言

2.副会長あいさつ

・「コロナの影響で対面での会議開催は久しぶりになる。本日は会長の代理で議長をさせていただく。香取市の子ども・子育て支援事業計画が地域のニーズを反映し、地域の人々に寄り添った施策となるよう、委員の皆様の率直な意見をいただきたい」などの挨拶をいただく。

3.協議事項

（1）第2期子ども・子育て支援事業計画中間年の見直しについて

《事務局からの資料説明（資料1）》

・教育・保育に係る「量の見込み」の見直しについて

3号認定の1～2歳児の量が乖離10%以上のため、国の指針に従い計画を中間見直しする。

量の見込みには直接関係ないが、入所対象者数という意味で就学前の児童数をコーホート変化率法で推計。1・2・3号認定の各々について、実績値利用割合等を用いて量の見込みを推計。

・教育・保育に係る「量の見込み」の見直しに伴う確保方策(利用定員)の変更について

確保方策は、各事業者の意向を伺ったうえで設定。次回会議で提示予定。

・放課後児童健全育成事業 確保方策（定員）の変更について

令和4年度以降の放課後児童クラブの拡張や新設による受け入れ可能数の増加を反映。

《質疑応答》

（鈴木副会長）

資料2ページ目、教育・保育に係る「量の見込み」の見直しについて、例えば0歳とあるのは、年度の区切りはどうなっているのか？

（事務局）

例えばR5の数値で言うと、R4.4.2からR5.4.1までに生まれる子どもの推計値になる。R4の数値が急激に減っているが、やはりコロナなどの影響があったものと考えている。R5は少し持ち直す予測としている。出生数については、県が発表している出生率を用いて算出しているが、最新のものは令和2年と令和元年のもので、これからさらに低い数値の発表がある可能性もあるが、手元にある数値で推計した。

(齋藤委員)

資料3 ページ目、3号認定の量の見込みについて、1, 2歳児の利用割合実績がR4まで60%台半ばだったところ、R5から急に75%に上げているのは大丈夫か？

(事務局)

年齢の小さい子どもは多分にコロナの影響があったと考えており、計画値を急に下げると確保方策に影響して、預けたいのに預けられないような子どもが多く出ても困るので、計画時の数値から極端に減らないように補正している。

(出井委員)

資料3 ページ目、放課後児童健全育成事業について、計画書(P61)では「令和6年度までに、保護者の就労の有無に関わらない、児童の安全・安心な居場所づくりに努めます」とあるが、R6の変更して増やしたこの数字は、就労の有無に関わらず利用できる状態になっているということか？

(事務局)

計画書のこの記述は「放課後子ども教室」に係るものだが、就労の有無に関わらず、放課後の子どもの居場所や健全育成については市として対応していかないといけないことというのは認識しており、市全体で考えていきたいので、今後ともご協力いただきたい。

(出井委員)

共働きでなくても多様な理由で預けたいという保護者はおり、働いていない保護者でも子どもを預ける傾向は全体的に高まってきているので努力いただきたい。

《採決》

挙手可決（全会一致）

(2) (仮称) 第3期香取市子ども・子育て支援事業計画策定スケジュールについて

《事務局からの資料説明（資料2）》

・令和5年度にニーズ調査、令和6年度に計画策定を行っていく予定。計画期間は令和7年度から令和11年度。

《質疑応答》

(鈴木副会長)

業者の選定方法はどう考えているか？

(事務局)

今の予定では公募型プロポーザルとしたい。

(鈴木副会長)

パブリックコメントとか、市民からの意見聴取は？

(事務局)

パブコメは計画策定年度の令和6年度中を想定している。

(鈴木副会長)

この際、計画策定前に市へ要望とか意見があったら各委員からいただきたい。

(額川委員)

保護者側の立場としてお話をさせていただくと、新しい認定こども園の件で保護者に情報が回って来ず、不安が広がっている。佐原めぐみこども園が関与しているということで、めぐみこども園の保護者には比較的情報が回っているようだが、その他の保護者はそこから又聞きで情報を得ているような状況なので、情報提供について配慮いただきたい。

(事務局)

事務協議の中で保護者向けにより具体的な説明会を年度内に開かないといけないとの話が出ており、提供される保育の内容など具体的な説明ができると思う。引き続き情報提供に努めて参りたい。

(齋藤委員)

保護者にアンケートを取ることはよくあるが、保育所の保護者としては、保育所で働く保育士の方の意見を取り入れることが保育所が良くなることにつながると思うので、子育て会議あてに匿名でも本音のアンケートをやったらよいのではないかと思います。

(事務局)

働く人が心地よく働けることが、良い保育の提供につながると思うので、市としても何らかの形でそういったものをできないか、この時期に一緒に検討して参りたい。

(高橋委員)

今の話は定員の時の話（協議事項1）につながると思って聞いていた。必要な保育の量とかを予想して計算していると思うが、実際現場にいるとやはり数字だけでは解決できないことがあると思う。以前より小さい年齢の子から預けていることがあり先生たちを大変だと思って見ている。大体、保育園や幼稚園にどれくらい入るか予測ができれば各々と話し合って定員を決めていくとのことだったので、どのくらい可能だとか難しいといったことを現場と話し合いながら決めていけば、子どもにとっても保護者にとっても安心できると思う。

(事務局)

計画上の数字だけで考えていても、現場で保育を担っている事業者や公立保育所の意見を取り入れないと計画倒れになりかねないので、市としても毎年現場の意見を吸い上げたうえで決めて参りたい。

(鈴木副会長)

現場の保育者に寄り添った計画実現に努めていただきたい。

(島崎委員)

「父親が仕事で離れられなくて母親が急に病気になってしまった場合、子どもを預けざるを得ないが母親は普段仕事をしていないので預けられない」といった家族を多く見てきている。この計画では念頭に置いているか？

(事務局)

公立の園では「一時預かり」といって認定の基準を満たしていない方でも預かるような制度があるので、そちらの方を積極的に利用するよう勧めている。実際、昨年度、お母さんが入院するが父親が仕事でどうしようもないと相談があって、公立の一時預かりで母親が回復するまで預かせていただいたことがある。柔軟に対応して参りたい。

(島崎委員)

心強いがPRに努めていただきたい。この地域は医療機関が脆弱で、小児科の患者を紹介するとなると旭中央病院か成田赤十字病院が多いが、親が見つからないといけない。成人の完全看護は多いが、都市部だと病院が多いので競争で子どもの完全看護もあり、親がつくか選ぶことができる。私は大学病院に勤めていたが0歳から完全看護があった。千葉・東葛地域に行くと付き添いがいらないところも増えてくるが、香取市の状況では、急病で子どもの養育に困ったときに預けられるシステムがあることをもっとPRしていただきたい。

(事務局)

PRのことについては議員からも指摘されている。近隣だと多古町や神崎町のホームページには特設のサイトが設けられていて、必要な情報にたどり着くのが早い。目につきやすいPRというのも子育て支援策の一つと思うので、新たなものも考えながら進めていきたい。

(額川委員)

ファミリーサポート事業の件でも知っている方が少ない。ハードルも高く、例えば保育所の一時預かりは入所前でも今日登録すれば明日から使えるが、何月に登録しないと1年使えないとなる。友達に預けるか近所に預けるか、いれば心強いが、周りに全く知り合いがいない人にとっては不安なこと。ホームページを見ていただければという話があったが、第1子の方だとホームページや市に相談等という考えにまず至らない。広報があるのを知らない方もいる。子育て支援があることを知らない方が多い。知っていても自分が使ってよいのか、無料なのか、使用の仕方、様々なことがわからない。個人宛に手紙を出すとか、検診の時に説明するのであれば全員が集まっているときに説明するのではなく、1対1の面談の時にこのような支援があると声をかけてもらえるとわかりやすく伝わる。

(事務局)

平成31年度から子育て世代包括支援センターを妊娠期から切れ目ないサービスを提供しようということで立ち上げた。母子手帳の交付から、一人一人と関わりをもっと持っていくということで進めている。今までやってきた施策の中でも個々とお話しできる機会はあったと思うので、健康づくり課や教育委員会と協力しながら受け身ではなく進めて参りたい。

《採決》

挙手可決（全会一致）

4.その他

(事務局)

次回会議は、令和5年2月頃を予定

5.閉会 以上